



❁ 令和6年度の研修が始まりました! ❁

リスクにどのように対応するのか

1. 職員間のコミュニケーション
2. 正しい情報の共有化
3. 苦情処理、保護者意見への取組
4. 教育の質の向上
5. 責任を押し付けない ひとりにしない
6. 中長期の組織と人づくり
7. 管理者の覚悟

講義資料より

大阪教育大学健康安全教育系
教育学部教員養成課程 家政教育部門
教授 小崎 恭弘 氏

5月から6月上旬にかけて、3つの共通研修を行いました!その中で、6月3日(月)に、令和6年度リーダー研修A「管理者のための『リスクマネジメント』と『クライシスマネジメント』」を開催しました。リスクは絶対にゼロにはならないので、リスクの特質を理解したうえでその損失を最小限に抑えられるようにマネジメントやコントロールをすることが大切だと学びました。また、保護者対応のリスクマネジメントについて事例を含めてお話いただきました。「日ごろからの関係性の貯金が大切」という言葉が印象に残りました。7月1日(月)~7月16日(火)までオンデマンド配信をしていますので、ぜひご覧ください。その他にも、様々な研修を行っておりますので、ふるってご参加ください♪

こんにちは!
もりみつ めぐみです!



週3回センターに勤務している、
幼児教育アドバイザーです♪

明るく♪
楽しんで保育
しましょう♪
ポジティブに♪

- ・長年の教諭経験や、園長経験を生かして、先生方の相談に乗ります!
- ・小さなことから大きなことまで、園運営や人材育成、保育活動等、なんでもお気軽にご相談ください♪



充実しています!
アドバイザー等訪問!

今年度すでに60件以上の訪問要
請や園内研修の講師依頼を受けて
います!

❁訪問後アンケートより❁



定期的に訪問していただき、ありがたい。丁寧に保育を見て、その後のアドバイスも大変役に立った。



日々の保育の中では、振り返り気持ちを改めるということが難しい。このような機会をいかしてこれからの保育に役立っていきたい。



特別な準備は必要
ありません!お気軽に
お電話ください♪



乳幼セコラム いっぽ

愛着 (アタッチメント) について

スクールソーシャルワーカー 田村 真由美

愛着とは特定の対象との間に結ぶ情緒的な結びつきや絆のことをいい、乳幼児期において安定的に安心できる情緒的な関わりが愛着形成には大変重要だといわれています。

子どもは保護者や特定の保育者を愛着の対象とし、接触し安心感を得る経験やスキンシップが繰り返される中で愛着形成が育まれます。そして、信頼関係によりつくられた心のよりどころである「安全基地」をもとに活動範囲を広げていきます。子どもは、自分は大切な存在という確信が心の支えとなり「安全基地」をもとに外界を探索し、外界の探索活動から安心して戻ることができるのです。また、危険の恐れがある時は「安全基地」が避難所としての機能も果たします。しかし、虐待、ネグレクト、養育者が繰り返し変わるなどがあると愛着形成の阻害要因となり、無関心、無感情、困っていても助けを求めない等の反応性愛着障害や誰かれ構わず見境なく甘えようとする脱抑制型対人交流障害が生じることもあるのです。

愛着の形成は生後約3年の間に発達し、子どもの心理的、社会的発達に大きな影響を及ぼし、その後の他者との関係の土台を作り、生涯にわたって継続するといわれています。子どものありのままの姿を受け止め、たっぷり愛情を注ぎ、どんな時も安心できる「安全基地」があることが子どもの健やかな育ちに繋がるのです。